

い さ に わ ゆ き や 伊佐庭 如矢 (1828~1907)



県吏員。道後湯之町の初代町長。温泉郡道後村(現、松山市)出身。同村の町医者・成川国雄の三男として生まれる。儒学者・三上是庵について学を修め、松山城下の御宝町に家塾を開き、次いで松山藩の重臣・菅良弼の家令になった。明治維新後、松山藩に出仕して小学校世話方や社寺掛となり、廃藩置県後は県吏員として戸籍掛、社寺並衛生掛を担当した後に県幹部に抜擢され、高松支庁長、庶務課長、新設の衛生課長を歴任し、一時内務省図書局事務取扱となって上京したが、翌年には愛媛に呼び戻された。明治15(1882)年、山田香川郡長となり、その翌年からは愛媛県立高松中学校(現、香川県立高松高等学校)校長を兼ねて教育界でも活躍した。緊縮財政により高松中学校が廃校となると、金毘羅神宮禰宜に就任して財政の立て直しを行い、その功により内務省より一代恩給が下賜される名誉を得た。

明治23(1890)年、出身地の道後湯之町(現、松山市)初代町長に推され、以来、10年以上にわたりこの職責にあった。この間、道後温泉を町営に移し、明治27(1894)年4月、三層楼の道後温泉本館(現在、国指定重要文化財)を建築した。また有志と計画して道後鉄道会社を設立し、道後温泉本館開業の翌年、一番町及び三津口と道後温泉の間に軽便鉄道を走らせて湯治客を誘致した。道後温泉繁栄の基礎を築いて町長を勇退した後は、悠々自適の生活を送り、80歳で没した。

略 歴

文政11(1828)年9月12日	温泉郡道後村の町医者・成川国雄の三男として生まれる。
弘化2(1845)年	阿部家の養子に入る。
安政3(1856)年	老媒下塾を松山城下の御宝町で開く。
明治元(1868)年	阿部家を離籍、平民となって伊佐庭を名乗る。
明治2(1869)年	松山藩に出仕する。
明治5(1872)年	廃藩置県を機会に、県吏員となる。
明治10(1877)年	高松支庁長になる。
明治13(1880)年	内務省図書局事務取扱となって上京する。
明治14(1881)年	愛媛県に呼び戻される。
明治15(1882)年	山田香川郡長に就任する。
明治16(1883)年	愛媛県立高松中学校長を兼任する。
明治19(1886)年	金刀比羅神宮の禰宜になる。
明治23(1890)年	温泉郡道後湯之町の初代町長に就任。道後温泉本館改築に着手
明治25(1892)年2月	養生湯落成
明治26(1893)年9月	道後鉄道株式会社設立
明治27(1894)年4月	道後温泉本館落成
明治28(1895)年8月	道後鉄道開通
明治35(1902)年	町長を勇退
明治40(1907)年9月4日	脳溢血のため80歳で永眠

(写真提供：井谷典子氏)

〈参考文献〉

- ・加藤恵一『道後の夜明け～伊佐庭翁ものがたり』 道後温泉旅館協同組合 1988年
- ・『発掘えひめの人－近代を拓いた101人－』 愛媛新聞社 2002年
- ・二神将『愛媛県の創成期を支えた能吏伊佐庭如矢翁伝』 松山子規会 2005年

〈主な収蔵資料〉…(P203, 41)

〈ゆかりのある場所〉…(P279, 61~62)

〈関連施設〉…道後温泉本館

〒791-0842 愛媛県松山市道後湯之町5-6 TEL:089-921-5141